

1年(令和3年)1月19日 火曜日

総合

# 「急性期医療の単独維持困難」

## 済生会兵庫県病院、将来見通しで

神戸市北区の北神地域の急性期医療を担う済生会兵庫県病院(同区)は18日までに、「当院単独で、将来的に地域の基幹病院として急性期医療を維持・継続し



ていくことは困難」との見通しを示した。広域的な再編・ネットワークも視野に急性期医療の集約化について神戸市と検討し、難しい場合は急性期からの撤退も視野に入れるとしている。同病院の病床数は268床で、ハイリスク妊婦やハイリスク新生児らを24時間態勢で受け入れる地域周産期母子医療センターにも指定されている。将来見通し

は、三田市民病院との急性期医療の連携について話し合う会議で報告した。大病院に医師が集中しやすいとされる新専門医制度などで今後、医師確保が厳しくなると見込まれることに加え、診療圏では2035年をピークに急性期患者が減少に転じると予測。1991年に神戸市中央区から移転した際の整備費の残債が39億円あり、建物の建て替えも単独では難しいという。

将来的な方向性について

「広域的な再編・ネットワークも視野に、集約化による急性期の拠点づくりについて、神戸市と協議しながら今後の対応を検討する」とした上で、集約が難しい場合は急性期医療から撤退し、回復期医療へ転換。地域包括ケアシステムの拠点病院を目指すとしている。神戸市健康局は「北神地域の急性期医療を守るため、必要な対応を検討したい」としている。(長谷部崇)

北神地域の急性期医療を担う済生会兵庫県病院 神戸市北区藤原台中町5